

Ⅲ がん死亡数及び死亡率

1. 岡山県と全国の死亡率の比較

表4に年齢調整死亡率を全国値と対比した。全部位で岡山県の全国に対する比をみると男では0.95、女で0.92と全国を下回った。

部位別にみると、男では肝臓が1.08、悪性リンパ腫が1.02と全国を上回り、膵臓と肺が1.00と全国とほぼ同等であった。女では白血病が1.11、肝臓が1.08、膵臓が1.01が全国を上回った。

岡山県では男は年齢調整罹患率(2008年)、死亡率ともに概ね全国値を下回っている。女は年齢調整罹患率(2008年)は全国値を上回っているものの死亡率は全国値を下回っている(年齢調整罹患率数値については表2参照)。

	年齢調整死亡率 ^(*)						年齢調整罹患率 ^(*) 2008年		
	男		女		岡山/全国		岡山/全国		
	岡山	全国	岡山	全国	男	女	男	女	
全部位	173.3	182.4	85.1	92.2	0.95	0.92	0.95	1.04	
食道	7.7	9.1	0.9	1.2	0.85	0.71	0.92	0.68	
胃	25.7	28.2	9.2	10.2	0.91	0.90	0.85	0.88	
大腸	18.6	21.0	9.3	12.1	0.88	0.76	0.98	1.05	
}	結腸	11.3	12.8	6.7	8.6	0.88	0.78	0.94	1.04
	直腸	7.3	8.2	2.6	3.5	0.89	0.74	1.05	1.06
肝臓	20.5	19.0	6.9	6.4	1.08	1.08	0.99	1.03	
胆嚢・胆管	6.7	6.9	4.5	4.7	0.96	0.95	0.87	0.68	
膵臓	13.0	13.0	8.3	8.2	1.00	1.01	0.87	1.04	
肺	42.2	42.4	10.9	11.5	1.00	0.95	0.96	0.88	
乳房	-	-	11.6	11.9	-	0.97	-	1.05	
子宮	-	-	3.0	5.3	-	0.56	-	1.19	
卵巣	-	-	3.6	4.3	-	0.83	-	0.69	
前立腺	6.9	8.0	-	-	0.9	-	0.85	-	
膀胱	3.0	3.6	0.8	0.9	0.83	0.92	1.26	1.38	
悪性リンパ腫	5.1	5.0	2.3	2.7	1.02	0.86	0.54	0.49	
白血病	3.7	4.7	2.8	2.5	0.78	1.11	0.62	0.34	
年齢調整死亡率 ^(*) : 岡山の値については、表5から転記した。全国値については人口動態統計による。									
年齢調整罹患率 ^(*) : 表2から転記した2008年の年齢調整罹患率。									

2. 主要部位別死亡数、粗死亡率及び年齢調整死亡率

表5に岡山県の2010年のがん死亡数、粗死亡率及び年齢調整死亡率（標準人口：1985年日本人モデル人口）、死亡割合を男女別、主要部位別に示した。

がん死亡数については人口動態統計の数値（外国人を含まない）を使用した。

県内のがん死亡者数は男が3,262人、女2,256人。合計5,518人に上り、全死亡者20,248人の約28%を占めている。

部位別死亡数では肺が最も多く、男820人、女319人となっており、次いで胃の男474人、女266人となっている。

年齢調整死亡率（人口10万対）をみると、男では肺(42.2)、胃(25.7)が高く、女では乳(11.6)、肺(10.9)の順になっている。

死亡割合についてみると、男では肺(25.1%)、胃(14.5%)、肝臓(11.7%)が上位3位を占め、女では肺(14.1%)、大腸(12.1%)、胃(11.8%)が上位3位を占めた。男では大腸は9.9%で4位であった。

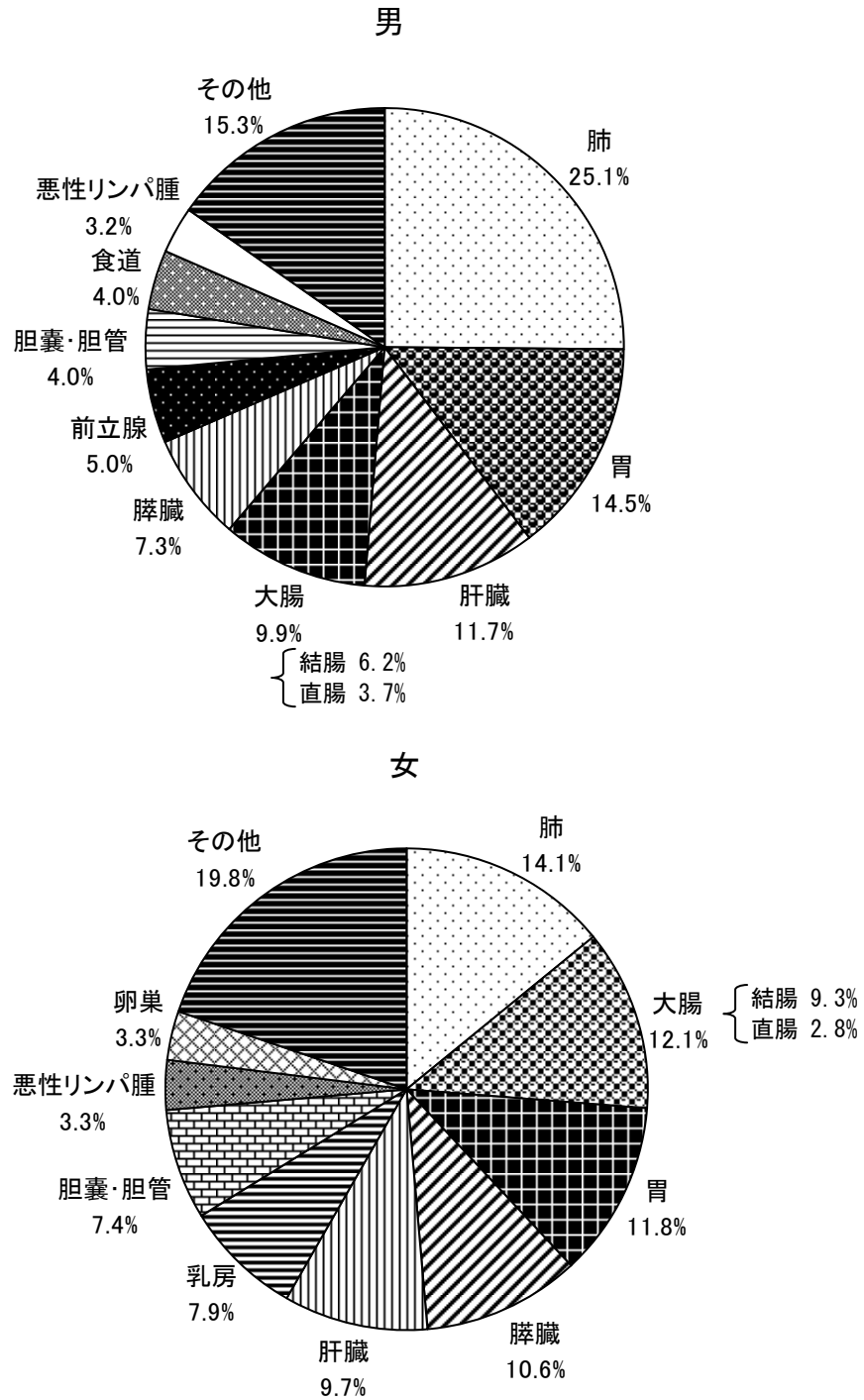
表5 死亡数、粗死亡率、年齢調整死亡率および死亡割合：主要部位別、性別 2010年

部位	死亡数			粗死亡率		年齢調整死亡率				死亡割合	
						日本人人口 ^(*1)		世界人口 ^(*2)			
	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女
全部位	3,262	2,256	5,518	349.6	222.9	173.3	85.1	117.8	60.3	100.0%	100.0%
口腔・咽頭	79	25	104	8.5	2.5	4.8	0.9	3.5	0.7	2.4%	1.1%
食道	131	22	153	14.0	2.2	7.7	0.9	5.6	0.6	4.0%	1.0%
胃	474	266	740	50.8	26.3	25.7	9.2	17.6	6.3	14.5%	11.8%
大腸	323	274	597	34.6	27.1	18.6	9.3	13.0	6.4	9.9%	12.1%
{ 結腸	202	210	412	21.6	20.7	11.3	6.7	8.0	4.6	6.2%	9.3%
{ 直腸	121	64	185	13.0	6.3	7.3	2.6	5.1	1.8	3.7%	2.8%
肝臓	381	219	600	40.8	21.6	20.5	6.9	13.6	4.4	11.7%	9.7%
胆嚢・胆管	132	167	299	14.1	16.5	6.7	4.5	4.4	2.9	4.0%	7.4%
膵臓	237	239	476	25.4	23.6	13.0	8.3	8.9	5.6	7.3%	10.6%
喉頭	13	0	13	1.4	0.0	0.7	0.0	0.5	0.0	0.4%	0.0%
肺	820	319	1,139	87.9	31.5	42.2	10.9	28.3	7.5	25.1%	14.1%
皮膚 ^(*3)	8	11	19	0.9	1.1	0.3	0.7	0.2	0.5	0.2%	0.5%
乳房	2	179	181	0.2	17.7	0.2	11.6	0.1	8.9	0.1%	7.9%
子宮	-	65	65	-	6.4	-	3.0	-	2.2	-	2.9%
卵巣	-	74	74	-	7.3	-	3.6	-	2.5	-	3.3%
前立腺	163	-	163	17.5	-	6.9	-	4.2	-	5.0%	-
膀胱	68	32	100	7.3	3.2	3.0	0.8	1.9	0.5	2.1%	1.4%
脳・神経系	17	21	38	1.8	2.1	1.3	1.6	0.9	1.7	0.5%	0.9%
悪性リンパ腫	103	75	178	11.0	7.4	5.1	2.3	3.3	1.5	3.2%	3.3%
白血病	61	52	113	6.5	5.1	3.7	2.8	2.7	2.2	1.9%	2.3%

日本人人口^(*1): 1985年日本人モデル人口 世界人口^(*2): Dollの世界人口
 皮膚^(*3): 皮膚の黒色腫を含む

図 12 に上位 9 位の部位別死亡割合を男女別にグラフで示した。

図 1 2 部位別死亡割合 (%) : 主要部位別



3. 主要部位別罹患と死亡の比較

表6に罹患と死亡（人口動態統計による）各々について数、粗率、年齢調整率を男女計について対比するとともに、罹患数の死亡数に対する比（I/M）及び死亡数の罹患数に対する比（M/I）を示した。なお、外国人については罹患数集計では除外していないが、死亡数は外国人を除外した数値である。

届出の精度を示す第二の指標である全部位のIM比は2.43であった。

部位別のIM比は生存率の相対的な高低を示唆するものであるが、皮膚(17.21)、子宮(7.55)、前立腺(6.32)、喉頭(5.92)、乳房(5.88)が高かった。

	数		粗率		年齢調整率 ^(*)		罹患数	死亡数
	罹患	死亡	罹患	死亡	罹患	死亡	／死亡数 (IM比)	／罹患数 (MI比)
全部位	13,413	5,518	689.5	283.7	375.1	123.2	2.43	0.41
口腔・咽頭	236	104	12.1	5.3	7.2	2.7	2.27	0.44
食道	332	153	17.1	7.9	9.4	4.0	2.17	0.46
胃	1,992	740	102.4	38.0	50.0	16.5	2.69	0.37
大腸	2,019	597	103.8	30.7	54.9	13.6	3.38	0.30
┌ 結腸	1,275	412	65.5	21.2	33.3	8.8	3.09	0.32
└ 直腸	744	185	38.2	9.5	21.6	4.7	4.02	0.25
肝臓	798	600	41.0	30.8	19.5	13.0	1.33	0.75
胆嚢・胆管	318	299	16.3	15.4	6.4	5.5	1.06	0.94
膵臓	522	476	26.8	24.5	12.2	10.5	1.10	0.91
喉頭	77	13	4.0	0.7	2.1	0.3	5.92	0.17
肺	1,587	1,139	81.6	58.6	37.8	24.4	1.39	0.72
皮膚 ^(*)	327	19	16.8	1.0	7.3	0.5	17.21	0.06
乳房	1,065	181	54.7	9.3	41.5	6.1	5.88	0.17
子宮	491	65	25.2	3.3	23.1	1.6	7.55	0.13
卵巣	130	74	6.7	3.8	5.0	1.9	1.76	0.57
前立腺	1,030	163	52.9	8.4	24.8	2.7	6.32	0.16
膀胱	485	100	24.9	5.1	11.6	1.7	4.85	0.21
脳・神経系	153	38	7.9	2.0	5.3	1.4	4.03	0.25
悪性リンパ腫	409	178	21.0	9.2	12.0	3.5	2.30	0.44
白血病	141	113	7.2	5.8	5.0	3.1	1.25	0.80

年齢調整率^(*): 標準人口は1985年日本人モデル人口を用いた。
 皮膚^(*): 皮膚の黒色腫を含む

図13、14に2010年特定部位の罹患数と死亡数を男女別に比較した。

男では罹患数3位の肺が死亡数では1位、女では罹患数5位の肺が死亡数では1位であった(付表11, 12, 22, 23)。

生存率を反映するIM比は男の前立腺(6.3)、女の子宮(7.6)、乳房(5.9)が高く、これらの疾患は予後が比較的良好と考えられる。

図13 2010年罹患数及び死亡数(特定部位)－男－

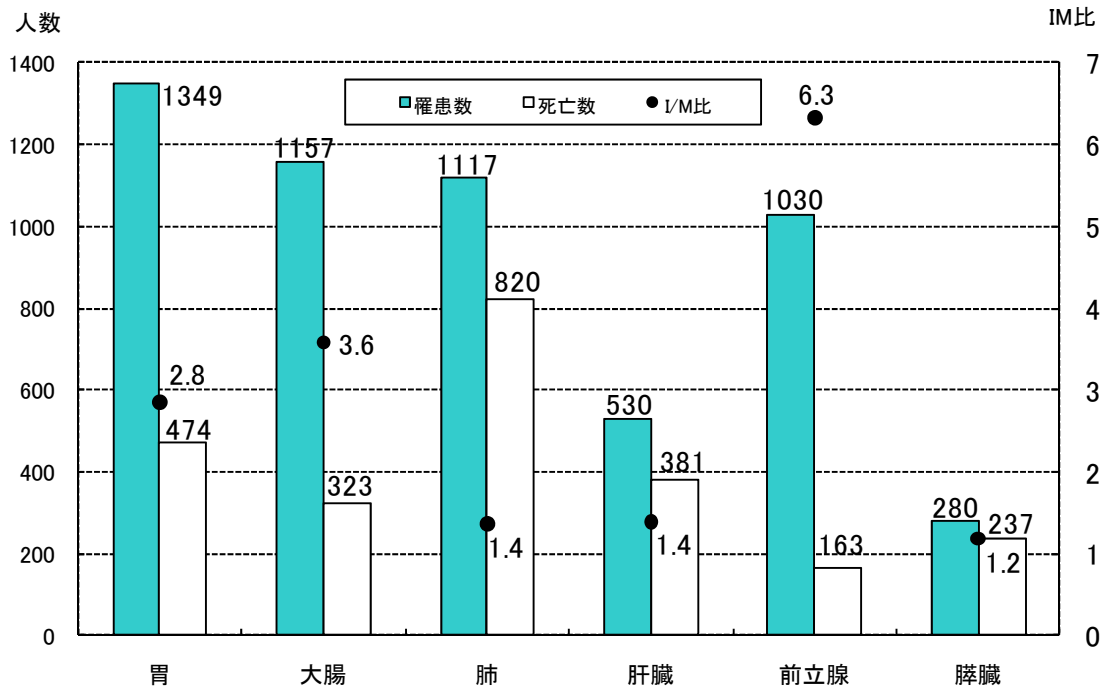


図14 2010年罹患数及び死亡数(特定部位)－女－

